

生徒指導の中での情報モラル指導

学校生活の中には、情報モラル指導のきっかけがいくつもあります。
折にふれての指導の積み重ねが有効です。

① 次の事例で問題点を探してみましょう

- ○ ○ 中学校の☆☆先生は、美術科の授業のために日々、教材研究に励んでいます。
- 授業で描かせた生徒の作品（絵画）が力作ぞろいだったため、☆☆先生の判断で、今回、ある新聞社主催の美術コンクールに全作品を応募したところ、3人の作品が入選しました。
- そこで、本人の了承を得た上で、学校のWebページに本人の氏名と顔写真とともに、入選作品を載せて公開することにしました。実際に公開するときは、Webページのレイアウトの関係で、本人に断りなしに、
- 作品画像の一部をトリミング（切り取り・編集）しました。
- その後、3人の保護者からは「家族一同、学校のWebページを見て大変喜んでいました。」と連絡をもらいました。

（「熊本県教育委員会 熊本県立教育センター」の資料の一部を改変）
<http://www.higo.ed.jp/edu-c/ethics/morals/kyousi.htm>



上の事例で、問題だと思う点を書き出してみましょう。



? 作品に名前をつけるのは何のため?

学習活動の中で児童生徒が制作した制作物は、教師がかかわった部分が指導・助言の範囲を越えない限りにおいて、児童生徒の著作物です。作品が創作された時点から、著作権という権利が発生します。この権利をその作品の保護・文化の発展という観点から考えてみましょう。

作品に氏名などをつけるのは何のためでしょうか？

他人からものを借りるときには、その人から了解を得ることが私たちの常識です。自分の著作物と他人の著作物とを区別するということは、著作権を大切にすることにほかなりません。また、その制作活動に敬意を表して、無断で改変しないことは、著作権者の感性を大切にすることでもあります。このように考えれば、校外の作品展、コンクール、学校のWebページでその作品をどう扱えばよいかが見えてきます。また、ここでは、個人情報の外部への提供などにも注意する必要があります。

